

# 友の会通信

第17号

2012年9月1日(土)  
葛飾図書館友の会  
編集 広報委員会  
発行責任者 中里 隆二

## 図書館所蔵のCD・DVDを大音量で聴くコンサート — CD・DVDコンサート委員会の8か月 —

第2回  
図書館所蔵CDによるホール演奏会  
新年は、まず序の曲から！  
大音量で聴く「序曲特集」

1. 歌劇「魔弾の射手」序曲…C. ウェーバー
2. 喜歌劇「こもり」序曲…J. シュトラウスⅡ世
3. <大音楽祭序曲>作品80…J. ブラームス
4. 劇音楽「真夏の夜の夢」序曲…F. メンデルスゾーン
5. 喜歌劇「軽騎兵」序曲…F. スッペ
6. 歌劇「運命の力」序曲…G. ヴェルディ
7. 歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲…M. グリンカ
8. 歌劇「フィガロの結婚」序曲…W. モーツァルト
9. <エグモント>作品84序曲…L. ベートーヴェン
10. 歌劇「ウリアム・テル」序曲…G. ロッシニ
11. <序曲1812年>…P. チャイコフスキー

●開催日 平成24年1月29日(日)  
●時間 14時～16時  
●会場 「特設コンサートホール」  
(中央図書館・会議室1)  
どなたでも先着100名、入場無料  
■主催「葛飾図書館友の会」  
CD・DVDコンサート委員会

この委員会を立ち上げたコンセプトは、音楽愛好家がマンションや部屋の片隅で周囲に遠慮しながら聴いていることを想像し、中央図書館のホール(会議室1)で思い切り大きな音量で視聴できたらどうだろう、というところにありました。

メンバーを募ったところ、それらしき知識?と技術力?をもった皆さんが集まったので、さいわいにも月1回のペースで8カ月を経過することができました。

### ◆心配した第1回のコンサート

始めはどんなテーマでスタートするか大いに議論しましたが、皆さんが興味と関心を呼び出すことができるように、カラヤン指揮の交響楽団が奏する映画音楽にちなんだ曲を集めました。その映画のポスターを拡大映写すべく、さんざん苦勞しました。アンケートの結果は好評で、やっと一息でした。

2回目以降は「序曲」「ポップス」「オルフェウス」「春」「ドビュッシー」「名曲旅行」

「私の好きな曲」など、カレンダーをベースにしたテーマを進めてきました。

残念ながら、会議室1は講演会のための拡声・映写機材は充実していますが、コンサートを開催するようなアンプ・スピーカーは設置されていないので毎回言い訳をしています。

### ◆映像資料の選択基準

できるだけポピュラーな作曲家、演奏者、指揮者、オーケストラを選んで取り上げています。しかし「森鷗外訳・オルフェウス」のような希少価値のある資料を取りあげることもありました。

悩みは著作権の問題です。映写を禁じられているDVDが多いこと、数量が少ないこと、さらに上映自由でも古くて鑑賞に堪えないものが多いことです。

### ◆これからも来館者との交流を深めるために

視聴者の皆さんの応援に支えられて、やっとここまで来ました。悩みは各委員会と同じで、少しずつ会員増加に資するものの、まだまだの感じです。これからも努力してこのユニークと言われるコンサートを続けていきます。

第7回 図書館所蔵のCD・DVDによる  
大音量が楽しめるコンサート  
**ドビュッシーはお好き?**

ドビュッシー生誕150年に寄せて  
第14回と完璧な技法で新しい時代を開いた、その美しさと혁신さを永遠に伝える、ドビュッシーの名曲を「ホール」で心ゆくまで聴いてください。

第1部 ～懐かし「月の光」ほか  
1) ベルガムズ組曲第1曲「月の光」  
2) 小曲集「小舟にて」  
3) ワイオロンソナタ 第1楽章～第3楽章  
4) 眠られた少女  
5) 開始部 II、合奏 III、眠られた少女  
6) 神聖なる舞曲 聖乐的な舞曲の舞曲  
7) 夜想曲より「夜明け」

第2部 ～幻想のまどろみ「牧神の午後への前奏曲」ほか  
1) 牧神の午後への前奏曲  
2) 前奏曲集 第一巻より「夜明けの光」  
3) 舞  
4) 舞  
5) 舞上の夜明けから正午まで II、舞の戯れ、舞、舞と海の対話  
6) 休憩

第3部 ～電子音楽による「月の光」を聴いてみよう  
1) 月の光  
2) 藍色の舞の少女  
3) ハズレエ、4) 小さな黒人  
5) レントより 6) 月の光 ver.2

口演 葛飾音楽ボランティアの会  
口導 成 葛飾図書館友の会・CD・DVDコンサート委員会(編者の都合による曲の変更があります)  
必 参加費無料・観覧のみ(入場券)・無断で撮影はご遠慮ください(音楽家・作家の許可なく撮影)・ライブ中「ドビュッシー」(音楽)に敬意を込めて撮影された日本人・フランス音楽家・音楽家と日本人)といずれも葛飾区立図書館に寄贈された曲集、CD、DVDの複製を禁じます。

日 時=6月24日(日) 2:00PM～4:00PM  
会 場=葛飾区立中央図書館 会議室1  
●入場無料 ●定員=先着100名 ●主催=葛飾図書館友の会

## 【お知らせ】第4回『友の会ウィーク』開催

中央図書館で11月4日(日)から11月18日(日)まで

中央図書館開館3周年を祝い、図書館は10月中旬から11月3日まで講演会やお話会、展示などの記念イベントを企画しています。このイベントに引き続き、葛飾図書館友の会も11月4日から第4回目となる『友の会ウィーク』を開催する予定です。昨年度は20のイベントと3種の展示に、合計600名を超える実施者と来場者が参加しています。

今回も「友の会」は様々なイベントなどの開催を予定しています。詳しくは今後区内各図書館に掲示されるポスターや館内で配布されるチラシ、ホームページなどでお知らせしますので、ご期待ください。

# 「よりよい練馬区の図書館をつくる会」と交流 “区の行政による理想的な図書館の実現を”と活動

7月17日(火)午後、「よりよい練馬区の図書館をつくる会」「ねりま地域文庫読書サークル連絡会」及び「学校図書館を考える会ねりま」の3つの団体の皆さんが中央図書館の見学と「葛飾図書館友の会」との交流に来館されました。

8名の会員は1時間半の館内見学後、福部総務委員長による当会の設立経過や目的、現在の各委員会の活動状況などの説明を受け、相互の質疑応答を行いました。

「つくる会」の関事務局長の説明によれば、練馬区には12の図書館があり、「つくる会」は区内図書館は区の行政として運営すべきであること、また専門知識を持った司書職員の常駐が図書館には必要であるとの立場で活動している団体です。

2004年に設立され、現在の会員は70名、会費制度はなく、寄付や事業収入で財政を賄いながら、図書館の業務水準向上に対する要望と理想的な図書館を目指し、議会や行政への働きかけや会員による視察・調査・研究や学習会・講演会の開催、利用者や住民などとの協働も呼びかけて友の会づくりも検討しているとのこと。

「友の会」に対して、設立までの区行政や図書館員との関係について多くの質問があり、出席した鶴岡・高橋副会長の、“中央図書館開設はほぼ一体感を持って進められた”“区の予算措置も充実していたようだ”との感想に、また5年目を迎えている現在の活動も含め、図書館側の対応は極めて好意的であり、相互に協力しながら進んでいるなどの話にうなずくことしきりの様子の皆さんでした。今後も交流を続けていくことを約束し、約1時間にわたる交流を終えました。



## 【友の会トピックス】

### 中央図書館からの依頼によるボランティア作業

- ① 5月中旬、葛飾区立図書館報『としょかんだより』の訂正シールの貼付作業に協力依頼があり、のべ7人の会員が参加しました。
- ② 5月下旬から6月中旬にかけ、上小松図書館の書籍のリサイクル処理の依頼があり、新宿図書館センターでのICタグ剥し、除籍済シールの貼付、処理済スタンプの押印などの作業にのべ11名の会員が参加しました。

### “墨田区図書館友の会”立ち上げに意見交換

8月5日、来年3月に曳舟駅近くの開館する予定の墨田区中央図書館に友の会のような組織を立ち上げたいと、墨田区の新図書館プロジェクトのリーダーの方が訪問されました。当会のこれまでの設立準備から現在の活動などについて高橋副会長と福部総務委員長が対応、説明しました。後日“非常に参考になり今後も交流したい”との感謝のメールがありました。

### 葛飾図書館友の会 ホームページ

PC用URL：<http://katsutomo.jimdo.com/>

携帯用URL：<http://goo.gl/c6uEk>



携帯バーコード

# 今年も『自由研究おうえんたい』出動 小学生の夏休みの宿題をサポート

－児童・YA サービス委員会などが開催－



7月30日(月)と31日(火)の両日、葛飾図書館友の会の児童・YA サービス応援委員会と中央図書館、葛飾区学校図書館支援指導員の有志の会の共催による『2012夏休み自由研究おうえんたい』が中央図書館で開催されました。この『おうえんたい』は筆記用具とやる気さえ持参すれば、夏休みの宿題で“困った!”小学生をサポートするというもの。今年で3回目を迎え、今回は開催中のロンドン五輪に合わせ、図書館や小学校も所蔵する百科事典『ポプラディア』を使えば正解がわかるオリンピッククイズも併せて行いました。

参加した小学生は2日間で約30名あまり。低学年の児童は親子で参加。キュウリの観察やピアノの歴史、電車・バスや図書館、花火やバネについてなど、そのテーマは多種多様。図書館の児童室作成の「調べ学習応援ノート」も準備され、参加した小学生はおうえんたいスタッフの方々のアドバイスを受け、図書館の本を利用しながら楽しそうに、そして熱心に課題に取り組んでいました。クイズ全問正解者に用意したプレゼントもなくなるのではと心配するほど…。

また同時に「図書館を使った調べる学習コンクール」12回、14回受賞作品(複製)の展示も行われました。

## 区民ボランティアの活動で再生した堀切の花菖蒲 －中央図書館で展示と講演会開催－

今年も葛飾区の花くしょうぶにちなんで各種の催しが区内で開かれました。中央図書館のデッキでは「花菖蒲展示実行委員会」による、堀切菖蒲園の花菖蒲を鉢植えて展示する『葛飾の花菖蒲展』(6/10～30)が開催されました。(後援：葛飾区立中央図書館・葛飾図書館友の会)

この催しの特別企画として同実行委員会により6月20日(水)午後6時半から『花菖蒲・育てる楽しさ・伝える喜び』という講演会が中央図書館において開催されました。橋本中央図書館館長の挨拶について、実行委員長の前田氏による趣旨説明が行われ、葛飾区文化財保護推進委員の保田史義氏からDVDの上映とパネル展示をもとに花菖蒲の由来、豊富な種類の誕生などの説明が行われました。さらに花菖蒲を育てる楽しさ、伝える喜びについて貴重な体験をもとにした講話が行われました。また堀切菖蒲園の花たちが土壌の劣化によって枯死の危機に瀕した際、区民ボランティアの活躍によって再生した話も感動的でした。



最後に「堀切第二菖蒲園の株分け作業について」という花菖蒲を育てる会の黒川幹夫氏による株分けの説明後、来場者への株のプレゼントもあり、盛況裡に終了しました。

## 「地図輪郭画 ex.展」 白地図を利用し、イメージ豊かに描く

－友の会会員の“にしの・ともひろ作品展”－



7月の1ヶ月間、中央図書館の事務室横の展示コーナーで、友の会会員で「考える絵」グループの西野智博さんの作品展が開催されました。題して「地図輪郭画 ex.展」、都道府県や区などの白地図を利用してひらめいた動物や人の姿などのイメージをカラフルに描くもの。この輪郭画は西野さんが考案したもので、ex.展とは example(例えば)という一例を表します。展示コーナーのホワイトボードとガラスケースには地図をひっくり返したり、横にしたりして描いた、アイデアいっぱいでもミカルな50点あ

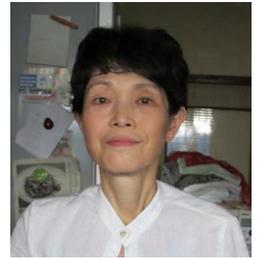
まりの輪郭画が所狭しとならびました。期間中、葛飾区の白地図を使った応募作品も展示されるなど楽しい展示会になりました。この展示会の開催には友の会の展示企画委員会も協力しています。その後、東日本大震災で被災した福島県の児童と区内の小学生が描いた輪郭画が、交流を兼ねて区内の各地で順次開催されます。なお、9月から同コーナーで展示企画委員会主催による「切り画(え)で歩むシルクロードとブッダ文化」展が開催されています。

ファンタジーとSFが苦手なワタシ(『アリス』とジャック・フィニイは別として)。子供時分人並み?の読書歴の中でも繰り返しかえし愉しんだのは冒険的あらすじの中に生活のディテイルを書きこんだ『家族ロビンソン』(ウィース作)だし、大人になってから読んだお気に入り『ツバメ号とアマゾン号』(ランサム作)のシリーズも、キャンプの食料の描写やボート操作の細部など、あたかも自分もその場に居合わせているような現実感にハマったのかもしれない。

で、アダムズの本書。危難迫る居住地から新天地へ脱出したうさぎたちの冒険物語で、予知夢、伝説のうさぎの挿話、強敵との攻防戦などファンタジーそのものなだけけれど、しかししかし。着ぐるみ的では決してない、うさぎの生態に基づいた思考・行動のなんと予想を超えたおもしろさ。穴蔵の生活など土の匂いがしてくるような臨場感がある(ちなみに著者が参考にしたロックリーの『アナウサギの生活』(思索社)も旧葛飾図書館のリサイクル本で偶然にゲット!)。うさぎたちの名前がヘイズル(はしばみ)、ダンディライアン(たんぼぼ)、シスル(あざみ)、ブルーベルなど植物名なのも『四季の自然』(評論社)を書いているアダムズらしい。名前を並べただけで英国の野原のイメージが脳裏に広がり背景としても効果満点。

愛読書には折りに触れ読み返す枕頭の書タイプや、一時期熱中した後は書棚にあるだけでも満足、たまさか手に取るだけで気が済むタイプがあり、本書は完全に後者に入る。

今回ひさしぶりに訳者あとがきを読んで、本書もランサム全集と同じ神宮輝夫訳だったと気が付いた。シンクロシティだろうか。



(はやし・なおみ 友の会会計)

## 「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか!

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか?

毎月第3土曜日の午後1時から4時まで中央図書館内で、また従来通り友の会開催イベント時に直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員は1,000円、賛助会員は1口2,000円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を下記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、24年度年会費とご記入下さい。また1口500円の寄付も大歓迎です。振替手数料は銀行窓口では120円、ATMからでは80円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

●問い合わせ先 中央図書館友の会担当者(打越さん、吉村さん、清水さん、白井さん) Tel 03-3607-9201

## 色えんぴつ

中央図書館で開かれた「区民大学の講座を受講した帰りがけに『友の会通信』を手にした。その紙面に「広報委員募集」の記事があった。以前、広報に携わった経験があり、何かお手伝いできればと友の会に入会した▼ところが気がついた。ほんの少しカジッたくらい、何の特技を持たない自分が参加できるようなレベルでないことに。へしまったー!と思ったが、何か魅力を感じ、これからの自分の「生涯学習」と、毎回冷や汗をかきながら活動に参加している。足手まといにならないように、少しずつ慣れる努力をしていきたい▼委員会の帰りに楽しみもできた。読んでみたい本が棚にたくさん並んでいる。この数年、読書から遠ざかっていたのに気づき、自宅の本棚に目を向けた。『東京タワー』、『通勤帰りの電車の中で涙ぐんだり、含み笑いをしながら読破したのを思い出した▼』『終の住処』は現在の家に移った時に、このようなタイトルでちよつとした文章を残しておきたいと考えていたので、失礼ながらタイトルに興味を持ち、読んだが、私の思っているような内容とは違っていた▼最近、最後に読んだ本は『遊行の門』。「人は生きていくだけで価値がある」の一行に魅せられ、一晩で読み終わった記憶がある。精神統一、ホコリを拭き取り、今の時代にもう一度読み直したい一冊だと思ふ今日のごろだ。

(小林広報委員)